

学校評価 自己評価結果

～教育委員会への『報告』より抜粋

『学校教育法』及び『学校教育法施行規則』の規定に基づき、今年度も学校評価を行いました。

横須賀市教育委員会では、指導の《重点1～3》(右図)に対応させる形で学校評価の様式を指定しています。これを踏まえる形で自己評価を行いました。

子どもの「生きる力」の育成

《重点1》 確かな学力を育成します	《重点2》 健康の保持増進と体力の向上を図ります	《重点3》 多様な人々と協働する力を育てます
< 目指す子どもの姿・子どもに身に付けさせたい力 >		
◇各教科等において身に付けるべき資質・能力 ◇粘り強く学ぶ力	◇運動やスポーツに対する肯定的な捉え ◇望ましい生活習慣	◇自分や他者を大切にする態度 ◇よりよい人間関係を築く力

● 学校教育目標

「かがやく心 かがやく力」～ことばみがき ころもみがき～

● 重点目標（目指す子どもの姿）

重点1	重点2	重点3
重点目標 学力を向上させる	重点目標 健康に関心をもち運動に親しむ子を育成する	重点目標 豊かな心の育成を図る
目指す児童像 か…考える子 が…がんばる子	目指す児童像 き…きたえる子	目指す児童像 や…やさしい子
具体的な取組		
基礎学力の向上 ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりの成果を共有し、日々の授業で実践する。 家庭学習の推進 ・宿題の徹底。 ・自主学習の取り組みについてシールやスタンプで励ましを行う。 ・自主学習の推進を学習指導部で話し合い、学校全体で取り組む。	外遊びの推奨・なわとび週間 ・各種ボールや短縄、一輪車、竹馬を用意し、外遊びへの意欲向上につなげる。 ・なわとび週間を設定し、全校で取り組む。 生活習慣について ・『ほけんだより』『給食だより』を定期的に発行し各家庭への啓発を行う。 ・養護教諭、栄養士と連携し、心と体の発育について啓発活動を行う。	自分や友達を大切にする心を育む取組 ・友達の良いところ探しを帰りの会で行う。学習の場面でグループ活動やペアワークを取り入れ、考えの違いに気付く場を設ける。学級や委員会などでの役割を明確にし、声を掛け合ったり、責任をもって仕事に取り組んだりする。 きまりを守り子が育つ取組 ・マナーやルールは自分たちの生活を守るためにあることを理解し、学校のきまりや道路の歩き方など、進んで守れるようにする。



検証の時期と方法		
<p>【実現状況】</p> <p>学校評価アンケートの「学校は、基礎基本の学力を身に付けるように授業の工夫をしているか」で肯定的回答85%以上を目指す。同様に「子どもは授業が分かりやすいと言っているか」で肯定的回答85%以上を目指す。</p> <p>学校評価アンケートにおける家庭学習の取り組みに対する質問において、肯定的回答70%以上を目指す。</p> <p>【検証方法】</p> <p>学校評価アンケート</p>	<p>【実現状況】</p> <p>新体力テストにおいて一昨年度と子どもの体力を比較し、結果を分析する。横須賀市平均と比較し、結果を分析する。</p> <p>生活習慣が整ったかどうか、年度末に職員への聞き取り調査を行い、共有し指導に生かす。</p> <p>給食、特に牛乳の残量を調査を夏と冬の二回程度行い、変化を検証する。</p> <p>【検証方法】</p> <p>新体力テスト</p>	<p>【実現状況】</p> <p>学校評価アンケートの「学校は、保護者と連携し生命の大切にする心や、社会のルールを守る態度を育てようとしているか」の項目で肯定的回答80%以上を目指す。</p> <p>また、「お子さんは学校に行くことが楽しいと言っているか」の項目で80%以上の肯定的な回答を目指す。</p> <p>【検証方法】</p> <p>学校評価アンケート</p>
検証結果・成果と課題		
<p>【取組状況】</p> <p>ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりの成果を共有し、日々の授業で実践している。宿題を毎日、家庭学習ノートを学年に応じて取り入れた。</p> <p>【達成状況】</p> <p>学校評価アンケートの「学校は、基礎基本の学力を身に付けるように授業の工夫をしているか」で肯定的回答が89%で目標を4%上回った。また、「子どもは授業が分かりやすいと言っているか」で肯定的回答が75%で、目標を10%下回った。</p> <p>学校評価アンケートにおける家庭学習の取り組みに対する質問において肯定的回答は、66%で、目標に4%届かなかった。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト・なわとび週間を実施し、児童の体力や技能向上に努めた。また、年二回の牛乳の残量を確認した。 <p>【達成状況】</p> <p>≪新体力テスト結果より≫</p> <p>学校を通して、実技の結果は良好であったが、学年が上がるにつれて、運動嫌いの児童や体を動かさない児童の割合が増えている。特に高学年女子の数値は顕著で、一週間に60分未満しか体を動かさない児童は、全体の約3割という結果になった。</p> <p>≪残量調査より≫</p> <p>6月と12月に牛乳の残量調査を行った。6月の残量は267kgで、12月の残量は240kgとなった。</p>	<p>【取組状況】</p> <p>児童会活動やクラブ活動を通して豊かな人間関係を築けるように、役割や交流の目的を明確にして取り組んだ。学校の約束を守れるように朝会を活用した指導を行った。</p> <p>【達成状況】</p> <p>学校評価アンケートの「学校は、保護者と連携し生命の大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしているか」の項目で肯定的回答が77%で目標を3%下回った。また、「お子さんは学校に行くことが楽しいと言っていますか」の項目で87%で目標を7%上回った。</p>
課題解決・次年度の取組		
<p>保護者へのアンケート「学校は、基礎基本の学力を身に付けるように授業の工夫をしているか」で肯定的回答が8</p>	<p>≪体力の向上について≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き外遊びの推奨を行い、体力の向上に努める ・課題のあった高学年の運動時 	<p>保護者アンケートで、「学校は、保護者と連携し生命の大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしてい</p>



<p>9%に対して「子どもは授業が分かりやすいと言っているか」で肯定的回答が75%と下がった。児童へのアンケート「授業は分かりますか。」は昨年と1%しか変わらず88%の肯定的回答があった。</p> <p>引き続き基礎基本の学力を身に付けるように授業の工夫をする、家庭学習を充実するという方向性は継続していく。加えて、楽しい学校、楽しい授業になるより一層の工夫や、児童と保護者の会話が増えるような仕掛けが必要になりそうだ。学校全体で親子で取り組める課題を出すなどのアイデアを出していく。</p>	<p>間の確保や運動嫌いの意識改善に対しては、体育の学習を充実させ、児童の運動量を増やしていきたい。その為に準備運動では、ストレッチに終始するのではなく、主運動につながる運動を、楽しみながら取り入れていく必要がある。</p> <p>《健康の保持増進について》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動を継続して行い健康の重要性を伝えていく。 ・給食時に給食メニューの栄養について放送をし、好き嫌いせず、栄養バランス良く食べることを働きかけてきた。今後も引き続き訴えていき、健康の保持増進に関心をもてるよう声掛けを行っていく。 	<p>るか」では、目標よりも下回った。児童を対象にした「学校のきまりを守っていますか。」の回答は、88%と高い数値が出ている。保護者の回答と併せてみると、(児童は)校内のきまりは守っているが、校外や道路でのきまりが守られていないことが見えてきた。保護者にとっては「もっと守れる。守らせたい」と感じていることが分かった。</p> <p>87%の保護者は、「子どもが学校に行くことが楽しい」と言っているが、子ども自身は75%にとどまっている。ふれあい相談室の活用や、生活アンケートの活用、日々の様子を丁寧に観察することで、安心して楽しく学校生活を送ることができるようにしていきたい。</p>
--	--	---

● 来年度に向けて

▶ 市が示す重点・目標への準拠

日々更新される教育課題への対応を可能にできるよう、市が示す「重点」や「目標」(右)を改めて反映させることと合わせ、本校の実態に合わせた重点目標に更新します。

学力の向上については、各教科等で身に付けさせるべき「資質・能力」

に改めて目を向け、個別最適な指導と学習評価のあり方等について、工夫改善を進めます。また、学習活動を支える要素の一つとして、多様な教育的ニーズを踏まえた適切な支援や、多様な児童と協働する力の育成にも、引き続き取り組んでいきます。

▶ 学校独自の《重点》の位置付け

これまでは、《重点1~3》の充実を図るために必要な「カリキュラム・マネジメント」の位置づ

- 目標1 確かな学力を育成します
- 目標2 健やかな体を育成します
- 目標3 豊かな心を育みます
- 目標4 多様な教育的ニーズを踏まえた適切な支援を行います
- 目標5 学校・家庭・地域の連携のもと、
持続可能な教育環境の整備・充実に取り組みます
- 目標6 教職員の力を高める体制づくりを進めます

けを明確にしてきませんでした。喫緊の課題とされている教員不足への対応や働き方改革等と合わせて、カリキュラム・マネジメントを充実させる必要があります。

来年度は学校独自の重点目標として、「カリキュラム・マネジメントと一体化した働き方改革」等を掲げ、課題を明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより、学校教育の質の向上を図っていきます。

